2025 (令和7) 年度 第1回古賀市人権施策審議会 事前質問一覧

番号	委員名	実施計画(案) 掲載ページ	担当課	実施計画(案)項目	質問内容
1	守田義弘委員	P1	人権センター	1. 実施計画の背景	「世界における人権意識の動向」と「国内における人権意識の動向」 については、人権意識との表現はかなり狭く受け止められかねないの で、「人権をめぐる動向」などとかを検討されないかと思います。
2		Р3	人権センター	2. 2024令和6)年度 の評価について	部落差別の解消に向けた取り組みとして、県の同和問題啓発強調月間に会わせて「同和問題を考える市民のつどいを実施し継続的に啓発に取り組んだ。」などを加えられないでしょうか?との課題に比べ少し薄めかなという気がしました。
3	岩城和代委員	P2	人権センター		人権問題に横断的に横たわる"風評被害"について、総評のどこかに入れられませんでしょうか? 敬愛しておりました稲積さまの本「同和問題の今、そして未来に向けて」というタイトルの本を読み、非常に大切な部分を思うところを、是非どこかに取り入れていただけたらと思います。 "風評被害を防ぐためには、第1に科学的認識を持つこと。第2は、偏見や固定観念を抱かないこと。第3は、自分で確かめもせず風評を鵜呑みにしないこと。第4は、面白がって付和雷同する無責任さに気づくこと。第5は何よりも風評被害者になる人たちの気持ちを想してみること。こうした意識と行動を身につけることが人権教育・ささりてみること。こうした意識と行動を身につけることが人権教育・ささります。どこかに書いてあるかもしれませんが…。
4	菊武由美子委員		教育部 保健福祉部		発達障害・学習障害が社会に広く認知されるようになって、昔は「変わった子ども」「扱いにくい子ども」「ダメな子」と一括りにされていた子どもたちの個性も尊重され、発達段階に応じて必要な支援がなされているが、支援前と開始後で子どもたちの変化は感じられるか?具体的な事例を差し支えない範囲で聞きたい。質問の背景2か月に1度、糸島のフリースクールを訪問している。最初は集団の輪に入れず、離れたところで自分の世界を守っていた子どもが半年、一年後に訪問すると、いきいきと仲間との活動を楽しんでいる様子が見て取れ、嬉しい。そのスクールは「自己決定」を尊重した関わりをモットーにされていて、周りの大人が個の特性を理解し、敬意を持って関わることの大切さを感じたことから。